

おもてお じょうぐち

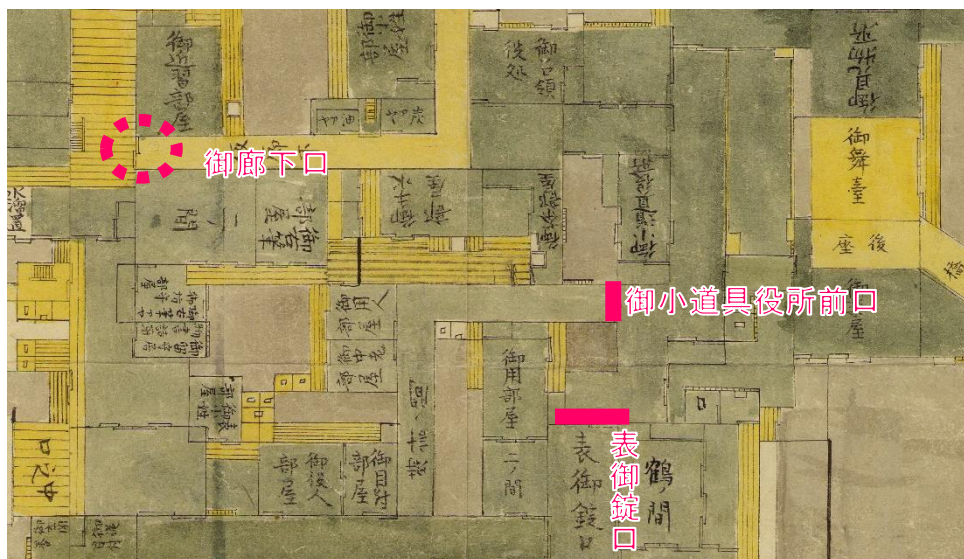
「表御錠口」をしめ切る「表御メ切」

「表御錠口」には、パネル 1・2 とは別の役割がありました。

文政 12 年（1829）5 月に浅姫（^{あさひめ}齊承正室、^{なりつぐ}將軍家齊娘）が「表御^へ切」で奥向表方に入った際の「少傳日録抄」には、「表御錠口并御廊下口、御小道具役所前口、都合三ヶ所御^へり付候事」とあり、「表御^へ切」とはこの 3 か所を閉じることであったことがわかります。

浅姫は、婚姻以来住んでいた霊岸島れいがんじまの屋敷がこの年 3 月に類焼し、しばらく江戸城本丸に立ち退いていましたが、4 月 21 日に常盤橋上屋敷内にできあがった仮住居に移りました。その後最初に浅姫が上屋敷の奥向表方に入った日に、「表御々切」において閉鎖すべき 3 か所をわざわざ記録したと思われます。

殿舎の改築等でしめ切りにされる場所は変化したと考えられますが、少なくとも「表御~~メ~~切」においては、「表御錠口」を含む奥向表方の複数の場所がしめ切られることによって、もともとお錠口によって閉鎖された大奥（奥向奥方）とともに、奥向全体が完全に閉じられた状態になっていたと考えられます。



「江戸常盤邸之図」松平文庫 A0143-21414 「御廊下口」は、推測。